



ネギは種から、それとも球根から育てるの

ネギには球根はない

ネギは、冬には地上に出ている葉がかれてしまう夏ネギ、冬も成長を続ける冬ネギなど、いくつか種類があります。西日本では、冬も成長する、緑色の葉の部分が多い、葉ネギがさいばいされ、よく食べられています。関東地方から北の方では、ネギは白い部分を食べることが多く、土をたくさんかぶせて、白い部分を多くした、根深ネギを、さいばいしています。ふつう食べているネギは、根の部分で、ネギに、球根はありません。

ねぎぼうずから、ネギの種ができる

春になると、ネギは、くきの先に、うすい皮をかぶった「ねぎぼうず」とよばれている、つぼみをつけます。皮の中には、300個ぐらいのつぼみが入っています。ネギの花が咲いて1か月ぐらいすると、黒い種ができます。ネギは、この種をまいて、育てます。

ネギによく似ていて、球根ができるのはタマネギです。タマネギは、うろこのように重なった球根ができ、その部分を食べます。春になると、ネギと同じような丸い花をつけます。この花の種をまいて、タマネギを育てます。(監修・矢野 亮)

